飢餓対策ニュース　第306号　発行日2015年12月20日（毎月20日発行）定価15円

日本国際飢餓対策機構（Japan International Food for the Hungry：略して JIFH）は、イエス・キリストの精神に基づいて活動する非営利の民間海外協力団体（NGO）です。1981年に誕生して以来、世界の貧困・飢餓問題の解決のために、自立開発協力、教育支援、緊急援助、人財育成、海外スタッフ派遣、飢餓啓発などに活動を広げてきました。現在は、国際飢餓対策機構連合（Food for the Hungry International Federation）の一員として、20ヵ国60のパートナー団体と協力し、アジア、アフリカ、中南米の開発途上国で、「こころとからだの飢餓」に応える活動をしています。

「おいしい恵みセット」

昨年も多くの皆様にフェアトレード商品をご購入頂き感謝申し上げます。今年もどうぞ宜しくお願いいたします。

・モカブレンドレギュラーコーヒー㊙1袋930円
・フェアトレード・ココア　1袋650円
・フェアトレード・チョコレート2つ760円
・梱包発送料800円
合計3140円を
税込2,800円でお届け
（北海道、沖縄、離島へは別途600円加算）
※チョコレートの種類はおまかせください。
※先着20セット限定
1セットにつきチョコレート1つプレゼント

【問合せ】キングダムビジネス
〒540-0026　大阪市中央区内本町1-4-12NPOビル402
TEL :06-6755-4877　FAX :06-6755-4888
メール：customer@kbwin-win.org
Web：キングダムビジネスで検索。

３月にファシリテータートレーニング

参加者を募集します！（千葉で開催）

「いつか海外で働きたい」「なぜ貧しい国があるの」「開発途上国で活動、となるとちょっと心配…」という方にお勧めします！講義とグループワークをします。
日時：2016年3月14日(月)～3月19日(土)
場所：東京基督教大学
（千葉県印西市内野3-301-5-1）
費用：3万円（テキスト代含む）
受付：広島事務所・木村☎082-546-9036

１月7日　バヌアツ大統領から招待

ロンズデール大統領が昨年のハリケーン支援に対して謝辞を述べたいと、パン・アキモト秋元特命大使と当機構岩橋理事長が招待されました。次号で報告します。

フィリピン台風緊急支援を開始

酒井駐在員（HOLPFI）のレポートによると、12月15日にフィリピンを襲った台風27号の影響で、東ミンドロ州では洪水で家屋が浸水し、農業被害が出ています。そのためHOLPFIは家屋補修支援を中心に、支援活動を進めていく予定です。緊急募金は下記とウエブからです。

郵便振替 00170-9-68590 日本国際飢餓対策機構「フィリピン台風」

西日本最大「ワン・ワールド・フェスティバル」に出展！

2016年2月6・7日、世界につながる国際協力のお祭り「ワン・ワールド・フェスティバル」が、関テレ扇町スクエア、北区民センター、扇町公園（大阪市北区扇町）の3ヵ所で開催されます。当機構も民族料理コーナーで「ハンガーゼロ・カフェ」を出展、フェアトレードの(株)キングダム・ビジネスも出店します。ぜひご来会ください。

ハンガーゼロサポーターを大募集中!!
4千口突破！
4057口

今すぐ▶▶▶各種支援のお申し込みができます!!

●まず右の必要事項に記入して、点線の枠部分を切り取りハガキに貼って、下記の大阪事務所宛に郵送、又はこの頁をコピーして、ファクシミリで申し込みください。確認のための必要書類等を送らせていただきます。
お電話でも申し込みできます。各事務所までおかけ下さい。

□ ハンガーゼロ・サポーターとして協力します。
毎月（　　）口　（1口1,000円）
□ チャイルド・サポーター（世界里親会）になりたいので説明書（申込書）を送ってください。
□ 海外スタッフ・サポーターとして協力します。
毎月（　　）口　（1口1,000円）
□ JIFHサポーターとして協力します。
毎月（　　）口　（1口500円）
□ 郵便自動引落し申込書を送って下さい。
□ その他の銀行自動引落し申込書を送って下さい。

フリガナ
氏名：　　男・女
〒
フリガナ
住所：
（電話）
▼申込日：　　年　月　日▼NL 306号

FAX・072-920-2155

■発行者　岩橋竜介
■発行所　一般財団法人　日本国際飢餓対策機構
Webサイトアドレス　http://www.jifh.org/
eメールアドレス　general@jifh.org
フェイスブック　https://www.facebook.com/hungerzero
ハンガーゼロで検索！
■募金方法　※各種方法で随時受付中、詳しくは電話やウエブサイトで
●郵便振替　00170-9-68590／日本国際飢餓対策機構
●他の金融機関からの自動振替●クレジット、デジタルコンビニ
今すぐ募金ができます！
かざして募金
大阪　〒581-0032 八尾市弓削町3-74-1　TEL(072)920-2225　FAX(072)920-2155
東京　〒101-0062 千代田区神田駿河台2-1 OCCビル517号室　TEL(03)3518-0781　FAX(03)3518-0782
東北　〒980-0012 仙台市青葉区錦町1-13-6エマオ2階E　TEL(022)217-4611　FAX(022)217-6651
愛知　〒460-0012 名古屋市中区千代田2-19-16 千代田ビル3F　TEL(052)265-7101　FAX(052)265-7132
広島　〒730-0036 広島市中区袋町4-8 CLCブックス2F　TEL(082)546-9036　FAX(082)546-9037
沖縄　〒900-0033 那覇市久米2-25-8 メゾン久米202号　TEL(098)943-9215　FAX(098)943-9216
USA　Ainote International c/o Mr. Takehiko Fujikawa 8010 Phaeton Dr. Oakland, CA94605　TEL(510)568-4939　FAX(510)293-0940
毎月、飢餓対策ニュースを皆様にお届けするために、ひばり障害者作業所（八尾市）、生活愛、関西地区のボランティアの皆様が発送作業のご協力をして下さっています。
「かざして募金」はスマートフォンからご利用できます。募金は、ソフトバンクモバイル（株）経由となります。詳しくはウエブサイトをご覧ください。

★Tポイントを利用して「南スーダン・マブイ小学校給食支援」ができるようになりました。Tポイント募金はこちら http://tsite.jp/donation/

1分間に17人（内12人が子ども）
1日に2万5,000人
1年間では約1,000万人が
飢えのために生命を失っています。

一般財団法人 日本国際飢餓対策機構
2016 1 No.306

飢餓対策ニュース

わたしから始める、世界が変わる

ネパールの子どもたち。今年2月に森親善大使が地震被災地で慰問コンサートを行います。

「無関心から善隣共生へ」

日本国際飢餓対策機構　理事長　岩橋竜介

新年おめでとうございます。昨年も皆様の尊いご支援をいただいて、私どもは世界の貧困と飢餓、そして災害によって苦しんでいる人々に皆様の愛をお届けすることができました。心から感謝いたします。

「安」という漢字が昨年の世相を表す字として選ばれましたが、平安の安というよりも、不安の安ではないかと思わされます。世界的にも不安が人々の心を支配するようになっています。紛争、政治、経済的な不安。自然災害に対する不安。これらのことはやがては個人的な不安になって、人々の生活に大きな影響を与えるようにもなるでしょう。そしてその影響は自分の周り、すなわち自分の隣のことに対してどう応答するのかに表れてくるものです。隣人不信に陥り、誰も信じられなくなり、そして生まれてくるものは、「無関心」です。

ノーベル平和賞を受賞した米国のユダヤ人作家のエリ・ヴィーゼル氏が語った言葉ですが、後にマザー・テレサのものとして有名になった言葉があります。「今日、我々は知っている。愛の反対は憎しみではない。無関心である。信頼の反対は傲慢ではない。無関心である。文化の反対は無知ではない。無関心である。芸術の反対は醜さではない。無関心である。平和の反対は、平和と戦争に対する無関心である。（後略）」（小貫大輔著『耳をすまして聞いてごらん』より）

電車やバスに乗っても、携帯電話、スマートフォンに全神経を集中し、隣に誰がいようが構わない。事故があれば自分が被った迷惑を嘆くばかりで、その人の安否を気遣うこともない。ましてや世界のどこかで明日の食べ物さえなく、愛する子が弱って母の細い腕の中で死んでいく現実が今起こっていても、よその国のことなので関心がない。直接自分のせいではないから？自分の力ではどうしようもないから？だから、考えないようにする。無関心ほど恐ろしいものはないと思います。

しかし、それを変える小さな一歩を踏み出すこともできるはずです。まず関心を持つことからです。この人はどうだろう？あの人のために自分は何ができるだろう？少し目を開き、耳を傾け、その手を開くことからです。その時、確実にあなたの周りは変わっていくことでしょう。あなたから、隣の人に。その隣の人からまた隣の人に。そして善き隣人となって共に生きる社会がそこから始まっていくのです。小さな一歩です。しかし確かな一歩です。

2016年、まずはその一歩を一緒に踏み出していきましょう。

コンゴ民主共和国・現地パートナー

ハンズ・オブ・ラブ・コンゴ

ジェローム・カセバ駐在員

紛争によって村を離れざるを得なかった人たちにとって、リーダーのパメラがルブンバシで参加した、JIFHによるVOCセミナー（地域変革セミナー）は、困難な生活をしていた人たちの目を開かせる画期的なものでした。

「プエトで起こっている変化」

避難民のパメラさん㊨の取り組みが地域社会にもよい影響となって

収獲がよい反響を生む

パメラは、村のメンバーとして国内避難民の人たちが力を合わせて生活を改善していかなければならないことを教えられました。そして多くの人がそのことに同意してリーダーを立て、初めて小さな農場プロジェクトをスタートしました。2年が過ぎて1年目よりはるかに多くの収穫、すなわち1袋50kgのトウモロコシを27袋収穫できたのです。その半分を食料として保存し半分を売る予定です。

彼らの努力の成果を見た中央政府役人の1人が、村のために尽くす彼らの姿に非常に強い印象を受け、製粉機2台とバイク1台を提供してくれました。役人が、村のために働くという考え方を何で知ったのかとたずねたので、パメラはJIFHによるVOCセミナーで教えられたのだと答えました。

彼らの生活が少しずつ良くなっていくのを見たプエトの地方役人は、他の村の人たちが模範として彼らを真似るべきだと評価してくれました。国の土地政策によって政府の土地をもらえる資格もでき、問題なく毎年農業が続けられそうです。この機会を利用して最善を尽くし、一人ひとりの生活の改善を図りたいと願っています。

村の開発をさらに進めるために粉砕機をどのように利用するかをみんなで話し合いました。その結果、みんなで利用できるようにトウモロコシを売ったお金で粉砕機の付属品を買うことにしました。

もう避難民としてでなく

今や国内避難民の人たちは、経済的には政府から与えられるものに頼る必要がなくなりました。このことは彼らにとって非常に大きな誇りとなり、彼らの生活を少しずつ変え、いつの日か子どもたちに教育を受けさせることができるという希望をもたらしています。懸命な努力の結果、彼らは社会的にまた経済的に社会の中で尊敬され始めています。人々はもはや国内避難民で厄介者としてではなく、村にとって大切な人間と考えてくれるようになりました。彼らはかつてのようにルブンバシの小さな部屋に閉じこもるのではなく、地域の人々と積極的に関わり、村の集会や共和国記念日、学校の行事などすべての大切な集りに参加しています。

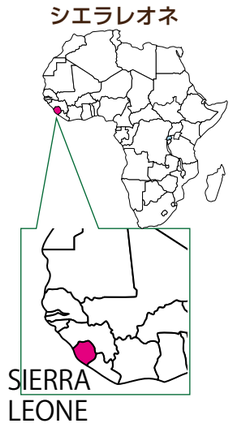
VOCのセミナーを開催してくれたJIFHと日本の皆様に、心から感謝しています。

地域の人々との積極的な関わりに信頼関係も生まれてきています

応援ください！

ハンズ・オブ・ラブ・コンゴの活動のために募金をお願いいたします。郵便振替の際は「ハンガーゼロ」と明記ください。

シエラレオネ・医薬品支援



- **現地パートナー**：Mercy and Hope International
- **支援物資の内容**：医薬品、エボラ出血熱対応の全身防護服、手袋、マスク、フィルター
- **配布担当**：MHIスタッフとボランティアが行ないました。
- **物資の配布場所**：ケリータウンコミュニティー病院、キングジョージホームクリニック、カンビア地区病院、ポート・ロコ地区病院、
- **支援の対象**：隔離された家に住む女性、子ども、老人

【現地スタッフの報告】

支援物資は、シエラレオネ各地でエボラ出血熱が蔓延している時期に到着しました。1時間ごとに人々が死んでいく中で、地域政府や国際救援団体はエボラ出血熱の対応に追われ、一般の人々、女性、子どもの命を脅かすエボラ出血熱以外の疾病には対応できませんでした。ご支援いただいた医薬品の多くは、病院や地域のクリニックでこれらエボラ出血熱と直接関係のない病気の治療に使われました。

また支援物資の中でも最も貴重な医療器具は、エボラ出血熱対応の全身防護服、マスクとフィルターでしたが、これらは、保健局職員によって使用されただけではなく、物資の配布時にエボラ出血熱感染者との接触の可能性からMHIの職員とボランティアを保護するためにも使われました。これは素晴らしい恵みでした。個人的に、私は検査用手袋を追加要請したいと思います。検査用手袋は国中で非常に不足していました。配給が行なわれたほぼ全ての場所で、追加の薬、特に抗生物質が必要との要請がありました。

シエラレオネの全ての人々を代表して、皆さまの惜しみない継続的なご支援を感謝いたします。

Mercy and Hope International
ディレクター Valentine Sualley

支援活動レポート
アフリカ＆国内

常総市・集中豪雨被災者支援

2015年9月、茨城県常総市を襲った集中豪雨により堤防が決壊し、1万～1万2千世帯に浸水、うち約2000件が半壊、約50件が全壊の被害を受けました。

11月23日～25日にJIFHはスタッフを派遣して支援活動を実施しました。3日間で総勢30名を越える方が応援に駆けつけてくださり、炊き出しや床下の泥出し、掃き掃除を一緒にさせていただきました。豪雨以来2ヶ月が経ち、被災直後に拭き掃除で済まして暮らしていた方々の家の壁にカビが生えてきて、助けの声をあげられたのでした。

被災者の間では、家のリフォームをして新たな生活を始める方々がいる一方で、助けを求める声さえもあげることができず、ボランティアが入るのが遅れてしまう方もいます。

床をはがして泥だし。12月26～28日にも活動しました。

心安らぐカフェタイム

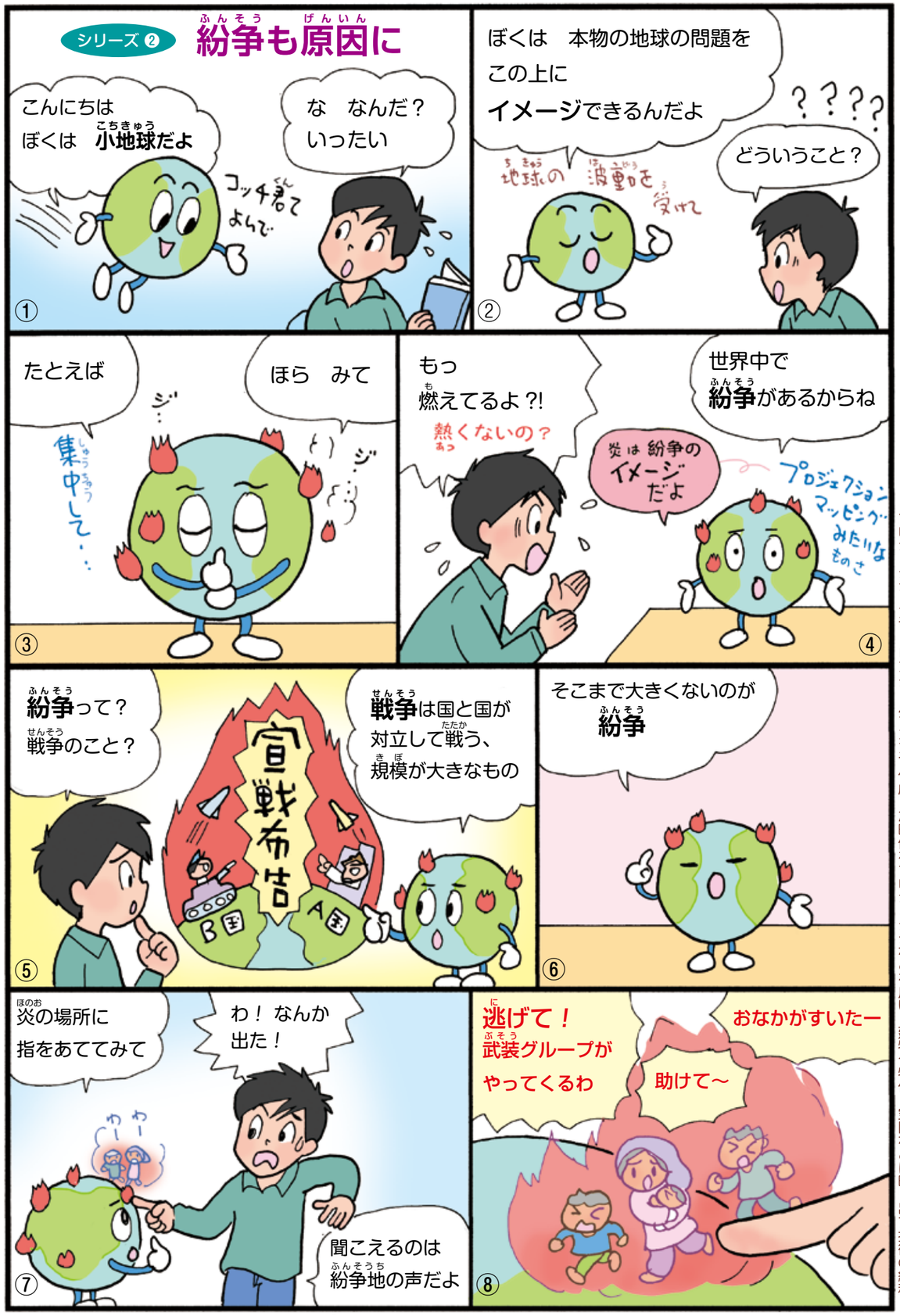
避難所での炊き出しは大好評でした。協力企業キングダムビジネスのフェアトレードコーヒーでJIFHカフェも実施、綺麗なティーカップで安らぎのひと時を過ごしていただきました。「避難所に来てからコーヒーは紙コップばかりだったけど、久しぶりに喫茶店のような雰囲気で楽しめた」といって喜ばれ、皆さんが心を開いてボランティアさんとのおしゃべりを楽しんでおられました。中には涙を流しながら、全国から手伝いに来てくれたことに感謝を述べられる方もありました。

特設のJIFHカフェ

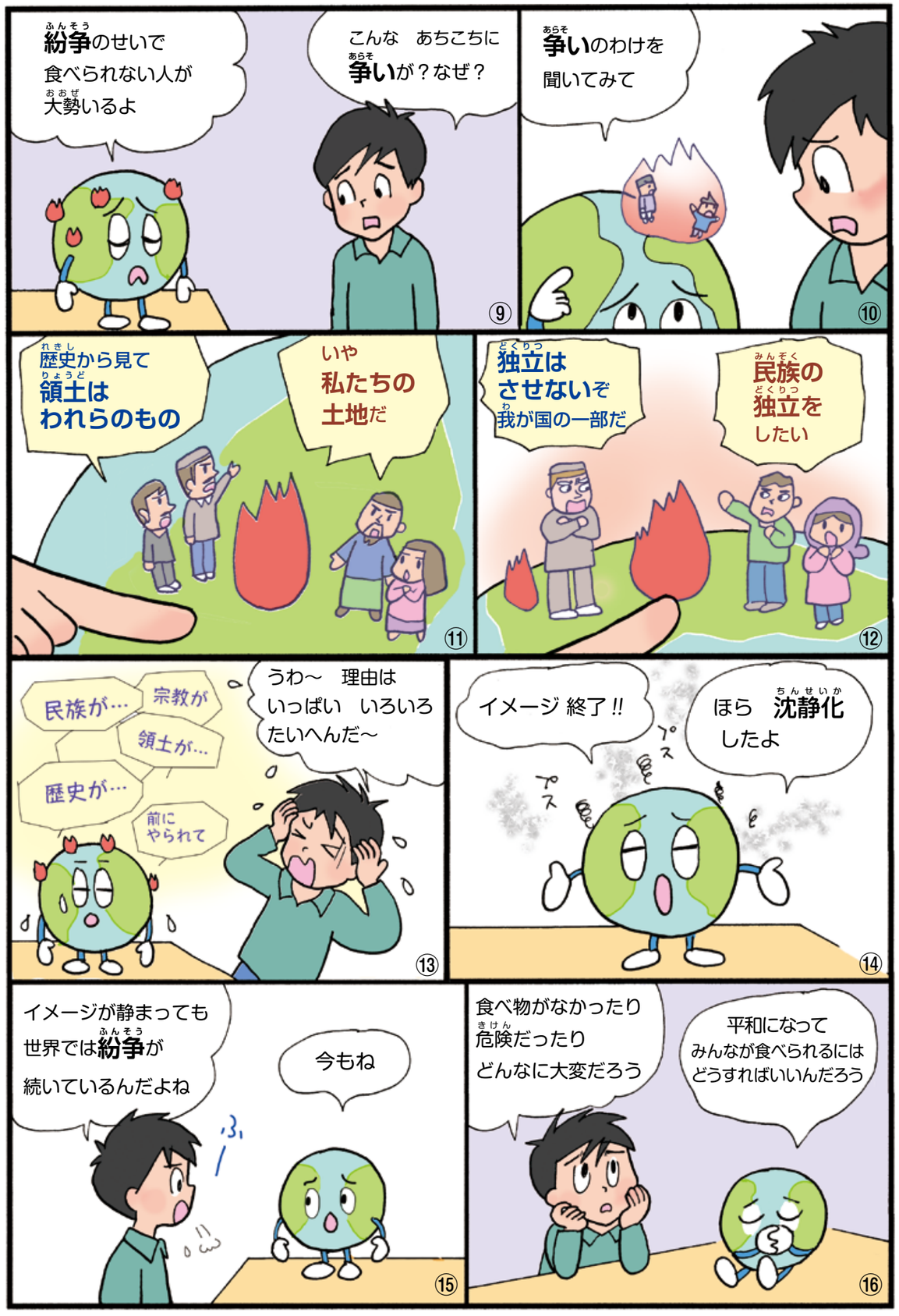
JIFHは今後も現地で活動しておられるNGO団体や教会と連携しながら、必要な支援をさせていただきたいと願っています。引き続いてご支援をよろしくお願いいたします。

食べ物があるのに飢えるのはなぜ？

みなみななみ



◀プロジェクションマッピング＝パソコンで作成した映像をプロジェクタなどを用い、建物や物体、空間などに映し出す技術の総称



HUNGER ZERO WORLD 飢餓のない世界の実現のために！

日本国際飢餓対策機構は、世界の飢餓・貧困問題を解決するためには開発途上国、工業先進国の双方の一人ひとりの意識変革と行動が大切であることを呼びかけてきました。「わたしから始める」の具体例の中から、ご自分に合うものを実行していただければ幸いです。

わたしから始める

生活の中から“始める”

●感謝していただく

棄てないように、食べ物を計画的に買う。食べ残しをなくす。
日本の年間食料廃棄の半分は家庭からでています。

給食を前に感謝の祈りをするケニア・コイノニア学校の子どもたち（ハンガーゼロ・アフリカ支援）

●書き損じはがきで応援する

各事務所では、未投函のはがきを換金して海外スタッフ支援のために用いさせて頂いています。

【2015年集計】
はがき：210,327円分の切手に換金。
未使用切手：180,575円分。
国内外の送料軽減に貢献しています。

●『本deリンク』で支援する

JIFH愛知事務所では送られた本やCD・ゲームソフトを換金して、飢餓・貧困に苦しむ人々の支援に用いさせて頂いています。引っ越し、大掃除の際にもぜひお送りください。

【2015年実績】66,077円

（内訳：本1420冊、CD216冊、DVD47冊）

㈱破れや汚れ、書き込みのある書籍、個人出版、文学全集は換金対象外です。CDやDVDはケース割れ、ジャケット、歌詞カード不備、海賊版、個人用、カセットテープやVHSビデオも不可です。

●ハンガーゼロ自動販売機を利用・設置する

飲み物を買うと1本につき10円がアフリカの人々に寄付されます。また防災対応のハンガーゼロ自販機を設置していただくと、10円の寄付と共に緊急災害時の備蓄用としてパンの缶詰、水各96個が無償で提供されます。現在、全国で90台が稼働中です。

【2015年募金実績】 2,270,490円

設置のご相談は大阪事務所までどうぞ。設置費用は必要ありません。

●募金箱を家庭や職場に置く

小銭と思われるお金も、飢餓・貧困に苦しむ人々にとって何倍もの価値を持ちます。募金箱は、各事務所にお問合せください。

●フェアトレードの商品を購入する

開発途上国の生産者から適正な価格で買い取られた商品を扱う会社（キングダムビジネス）から買って支援する。

（注：2015年、約30万円の募金がありました）

世界食料デー沖縄山大会（宮古島）
親善大使Manamiさんと子どもたち

▲2015世界食料デー南大阪大会では、地元の市長さんがギター演奏で大会に参加、会場が大いに盛り上がりました▶名古屋大会では、絵画展を実施、26団体から1216点もの絵が寄せられ、作品選考で選ばれた子どもたちが表彰されました。

世界が変わる

チャリティーコンサートを開催しませんか?

親善大使

森　祐理（福音歌手）　小堀英郎（ピアニスト）　上原令子（ゴスペル歌手）　ソン・ソルナム（フルート奏者）　Manami（歌手）　ナイトdeライト（バンド）

行動して“始める”

●企画して実行する

JIFHのスタッフを学校や団体に招いて世界の現状についての話を聞く。JIFHの親善大使を招いて、チャリティーイベントを企画する。

昨年９月「世界食料デー」関連企画として開催されたゴスペルコンサート（東京）

学校の文化祭などで飢餓問題の啓発活動や写真パネル、国際児童画の展示、飢餓問題のワークショップなどを行って関心を深める。

●ネットを活用する

自分のホームページやブログ、フェイスブックなどのSNS（ソーシャルネットワークサービス）を活用して飢餓の現状を伝え、支援参加の輪を広げる。

参加して“始める”

●世界食料デーに参加する

毎年秋行われる日本各地の「世界食料デー大会」に参加して現地からの報告を聞く。ボランティアとして運営に加わっていただくこともできます。

●海外ワークキャンプや研修に行く

JIFHが毎年夏に行う「海外ワークキャンプ」に参加して、活動地の人々の生活を体験し国際協力の実際を知る。JIFHのハンガーゼロ・ファシリテートレーニングに参加して、海外協力の専門的な学びをする。

今年のキャンプの場所は未定。

●国際協力イベントに参加する

各地で行われるワンワールドフェスティバル(大阪▶写真)やグローバルフェスタ(東京)、アイフェス(名古屋)などの国際協力フェスティバルにボランティアとして参加する。

まずは自分の地域でどのような国際協力団体や催しがあるかを調べてみましょう。各事務所におたずねください。

支援者の皆様とともに

現在約2737人の方々（累計）がハンガーゼロ・サポーター（現：4057口）として、またアフリカ・アジア・南米7ヵ国の里子たち（約2000人）のチャイルド・サポーターになって、支援を続けてくださっています。また、ネパール地震、茨城常総市豪雨水害（3頁に報告）では多数の皆様が募金を届けてくださっただけでなく、災害の現場での緊急・復興支援活動にもボランティアとして参加してくださいました。

ネパール・ボランティア・キャンプで健康調査を実施

支援者の皆様が世界の飢餓と貧困、そして自分の周りの社会の問題に対して「わたしから始める」とき、そこから新しい気づきが生まれ、人々の交流や祈りが広がっていきます。JIFHはそのような皆様共に貧困、飢餓、災害、紛争で苦しんでおられる人々の「心とからだ」を励まし続けます。

募金を“始める”

※募金方法は郵便振替、郵便・銀行からの自動引落しの他、ウエブサイトからクレジットカード、コンビニ決済などがご利用できます

「JIFHサポーター」として協力する。（一口 500円／月）
「ハンガーゼロ・サポーター」として協力する。（一口1000円／月）
「海外スタッフ・サポーター」として協力する。（一口1000円／月）
「チャイルド・サポーター」として協力する。（里子一人4000円／月）
「かざして募金」スマートフォンやＰＣから支援する。
「Tポイント募金」Ｔカードの保有ポイントで募金する。

ＪＩＦＨの各地の事務所にお気軽にお立ち寄りください。各種募金の受付や支援イベントのご相談などお待ちしています。

絵・みなみななみ